

## 附属小は「6つの学校」

14日は6年生の仙台市3地区・5地区の陸上記録会、14日～15日は4年生の泉ヶ岳の宿泊学習に参加させていただきました。

陸上記録会は今年から、6年生全員が「選手」として取り組み新たな大会に生まれ変わりました。仙台市の校長先生方の「全員をあのトラックで走らせたい」という思いが結実した結果、素晴らしい大会に生まれ変わりました。

附属小の6年生の子どもたちもこれまでの練習の成果を発揮し、好記録が続々生まれていました。菅原先生、佐山先生を中心に大地先生、剛先生、大久保先生、岡崎先生が、それぞれの持ち場で子どもたちを鼓舞し力を引き出してくれました。役員として参加した佐竹先生、黒田先生、本郷先生、千真先生、暑い中本当にありがとうございました。

泉ヶ岳の宿泊はお天気にも恵まれ、最後の野外炊飯の厳しい食器の点検を除いては本当に順調にプログラムを進めることができました。水神に行く途中に友達の荷物を持ってあげたり、友達に声をかけてあげたりする姿が自然に見られ、子どもたちの優しさと素直さを心から感じることができました。熊谷先生、阿部先生を中心に、声を枯らしながら子どもたちを励まし続けた前田先生、キャンプファイヤーで子どもたちを盛り上げた玉手先生、子どもたちの生活を温かく見守り続けた佐竹先生5人のチームワークのよさを感じた2日間でした。

また、村石先生には、6年生の宿泊から5年生、そして今回の4年生と全て宿泊に引率していただきました。先生方が安心して活動を進めることができるのも、村石先生が子どもたちの健康状況を極め細やかに把握していればこそで、改めてその存在の大きさを感じました。

附属小は6つの学校の総合体だと私は思っています。その理由の1つが「学年副主任制度」です。附属では「副」の付く仕事が忙しいと言われています。それぞれの学年がアイデンティティをもち、学年主任が実質の「校長先生」として全責任を負い、主任を補佐する副主任は公立の学校で言う「教頭先生兼教務主任」の仕事を行っています。今回6年生の市小体、4年生の泉ヶ岳の活動に参加し、佐山先生、阿部先生の「副主任」としての活躍の様子に、お二人の素晴らしさを改めて感じました（もちろん主任があつてこそ！）。子どもたちへの指導はもちろん周りの先生方への気配りの素晴らしさにも感心させられました。

キンモクセイの香りが漂いはじめ、いよいよ秋本番。9月30日には附属小教職員一丸となって、子どもも教師も燃える1日を迎えたいものです。

（文責：副校長 手代木）